

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400920		
法人名	株式会社メディウエル		
事業所名	グループホームみつわ台桜レジデンス		
所在地	千葉県若葉区みつわ台1-1-4		
自己評価作成日	平成23年2月16日	評価結果市町村受理日	平成23年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県中央区千葉港4-4 千葉県労働福祉センター5階		
訪問調査日	平成23年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療面には、特に力を入れ、利用者様の小さな変化にも気を配りながら、医師と綿密な連携を図っております。 ・四季の移り変わりを肌で感じていただけるように、天気の良い日は、その人のペースに合わせて散歩に出かけ、雨天時などは、室内で歌集に合わせて歌うことにより楽しい時間を過ごせるようにしています。 ・ホーム内では、家庭的な雰囲気を大切にし、利用者様が安心していただけるように、職員が目配り・心配りしています。 ・自立支援の視点を大切にし、できること・できないことを把握し、利用者様が必要とされていると感じら
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族が来訪しやすい雰囲気をつくることを大切にしており、訪問する家族が多く、職員と家族のコミュニケーションもよく取れている。「重度化対応に関する考え方」「看取り介護」について文書化しており、関連医療法人との連携のもと、入居者やその家族の意志を確認しながらターミナルケアを進めている。防災訓練・避難訓練については実施の上、消防署に報告がなされている。また、大雨による浸水被害も経験し、これがきっかけで地域との連携ができた。この経験を今後につなげるべく努力がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示している。職員は理念に沿ったケアの実践を心掛けている。	「ご入居者とそのご家族が、健康で幸福な楽しい生活を送れるようサポートします。」「ご入居者の尊厳を重視します。」他全部で5つからなる基本理念があり、管理者と職員は理念にそったケアができるように努めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、総会・公園掃除への出席。体育祭・シニアフェスティバルへの参加等進んで参加している。	例えばホームで工事をする等、何かある時には事前に声かけをするなど、近隣とのつきあいを大切にしている。	入居者の満足度向上や防災の観点からも、地域とのつきあいを一歩進めて、自治会や近隣の小中学校との交流にまで発展することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一度、桜だより(広報誌)を発行。来訪者様にお渡ししている。 広報誌を地域の掲示板に掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議の実施を心掛けています。ご家族様もスタッフも楽しみいられています。	運営推進会議には市の介護相談員や民生委員、入居者家族等が参加し、ホームの人員配置や「重度化した場合における指針・ターミナルケアについて」等について説明や質疑などが行われ、充実した内容の会議になっている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢施設課・高齢障害支援課・社会援護課・地域包括支援センターと連携をとっている。	スプリンクラー設置の際は、ホームは市役所に何度も足を運び、相談しながら進めた。この他、市の介護相談員もホームを訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修を受講し、拘束のないケアを実践している。 日中、玄関の鍵は無施錠です。	運営規定や契約書に身体拘束は行わないと明記している。玄関の鍵はかけておらず、自由に出入りできる。玄関はスタッフから見やすい位置にあり、目が届く。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修を受講し、実践している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会を持ち、家族よりの相談に応じ、必要な場合、支援を心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分に説明をし、理解・納得した上で、契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一度、桜だより(広報誌)を発行。又、投稿箱を設置し、ご家族様より、常に意見・要望が聞けるようにしています。	家族と職員のコミュニケーションがとれており、家族が来訪する際に職員に要望などを伝えている。家族の訪問する頻度は高い。	設置されている意見箱の存在をアピールしたり、意見をくみとる方法の複数化をはかり、さらに運営に反映していくとが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の業務ミーティングで、職員の意見や提案をまとめ、運営に反映させている。	朝の申し送り時やミーティングで意見を聞いている。職員の駐車場を確保してほしいという意見を法人にあげて、実現できた例もある。今後も引き続き意見を吸い上げていくことを期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績を手当てとして、毎月給与に反映できるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種、研修の機会を設けている。 月一度の業務ミーティングにて、スキルアップできるよう、職員より研修内容の希望も聞いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市GH連絡会の主催する研修に積極的に参加し、同業者との情報交換に役立っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なことを少しでも早く気づく為、声掛け、会話を多くするよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小まめに電話をしたり、小さなことにも職員間でご本人の情報を共有しカンファレンスを繰り返す。アセスメントを正確に取り、ご家族の声に耳を傾け少しでも早く信頼関係を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接時に、管理者・ケアマネージャー等が、アセスメントをし、サービス担当者会議を開催して支援内容を検討していく。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、出来ることはして頂き、出来ない事は一緒に行いながら、少しでも自分が必要とされているという自信を持ってもらえるように心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族、双方と馴染みの関係を築きながら寄り添い、支えていけるように努力しています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来訪された時は、温かくお迎えし、現状等お話ししながら場が馴染むよう努めています。	入居者の友人や知人が訪ねてくることもある。また、ホームは訪問しやすい雰囲気をつくることを大切にしており、家族の来訪が絶えることはない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の特徴をよく理解しながら援助し、孤立しないよう声掛け対応して、利用者同士の関わり合い、支え合えるように努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、電話等で近況をお聞きし、わかる事はお答えし、相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし、個々の趣味等を情報収集し、ご本人の意向を尊重しながら進めている。	居室担当職員を中心に、日々のケアの中から把握するように努めている。帰宅願望がある人には寄り添うことが大事であると考え、実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様からの暮らしの情報のもと、ご本人より、昔の思い出を聞かせて頂いたりして、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンに沿うようにしながら、ご本人の力量に応じて声掛け対応し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の開催、モニタリングの評価、ご家族・ご本人の要望等を確認しながら介護計画に反映させている。	家族の来訪時に要望を聞いたり、遠方にいる家族には電話で確認している。また職員の気づきは個別ファイルに記録しているので、これらをもとに介護支援専門員が作成し、定期的にモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに細かく記録し、日々のケア・介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と連携を取りながら、必要に応じて、地域包括支援センター等に相談ながら、情報を取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を把握し、利用しながら、地域に見守られての暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診を実施。他の医療機関受診希望の際は、診療情報を提供し、適切な医療が受診できるよう心掛けている。	関連法人である医院と連携がとれている。通院する場合には、ほとんど職員が付き添って、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づき、情報を看護記録や往診シート等で共有し、必要な場合は専門医への通院等支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、職員も病院に出向き、病院関係者・ご家族と情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や運営推進会議時等で説明し、ご本人・ご家族の希望に沿った支援ができるよう研修の機会を設け、チームケアの体制で支援していく。	「重度化対応に関する考え方」「看取り介護」について文書化しており、利用開始時に説明している。関連医療法人との連携のもと、入居者やその家族の意志を確認しながらターミナルケアを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中・夜間別に急変時・事故発生時のマニュアルを職員の目の届く場所に掲示し、市主催の救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練と地震訓練を行っている。	最近スプリンクラーを設置した。防災訓練・避難訓練については実施の上、消防署に報告がなされている。また、浸水による被害も経験し、この経験を今後につなげるべく努力している。	2階にも入居者がいるので、災害時の避難をどうするか、日頃から消防署にも相談しながら、考えておくことが必要と思われる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、さりげなく行うよう努力しています。	最近、職員が定着してきたことで、ケアの水準がレベルアップしている。言葉遣いについても、尊厳を傷つけないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常時間いかけ、選んで頂きながら本人の意向を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	悩み・訴えに対し、傾聴し、本人の納得できるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人を意向を尊重し、季節に合った服装、その人らしさが保たれるように声かけ、提案、用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、盛り付け、おしぼり作り、配膳、後片付けなど、個々に出来る事を見守りながら一緒に行っている。	食材は業者に発注しているが、入居者の誕生日には通常メニューの食材は注文せず、その人の希望も取り入れ、オリジナルメニューでお祝いをするなどしている。職員も一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を基本にしながら調理し、栄養・水分と個別に対応し、摂取量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、誘導にて口腔内の清潔保持に努めている。義歯利用者はつけ置き洗浄を行なっている。 定期的な訪問歯科を検討中。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンに合わせ、声掛けし、トイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄パターンを掴み、声かけすることで、できるだけおむつを使わないようにしている。結果として普通の下着で過ごすようになった入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維食品・野菜・果物・水分等勧め、個々に応じ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調・希望を考慮し進めている。	二日に一回は入浴している。入浴を嫌がる入居者には、声のかけ方を変えるなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう、日中の活動量を確保し、昼夜逆転しないよう注意をしている。居室の湿温度調整を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表にて、飲み忘れのないよう注意している。個別に薬ケース(顔写真付き)で管理している。症状の変化の確認に努めている。毎日の体調報告をDrにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野・好みの情報を共有し、一人一人に合った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調・希望・天候等によって、散歩や買い物にお誘いしている。季節の行事(運動会・桜まつり・敬老会)にも意向を伺いながら、参加の機会を設けている。	遠くまで出かけることが難しい場合でも、徒歩や車椅子で散歩や買い物に出かけるなど、入居者の健康状態を配慮して外出支援が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームで管理しているが、個々に応じて所持したり、スタッフとの買い物時に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合、できるよう支援している。携帯電話保持者もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのBGMを取り入れたり、季節ごとにディスプレイを替えたり、季節の花を生けたりしています。	入居者の書いた習字や、職員の手作りの作品などが飾られ、暖かな雰囲気を感じる。部屋の温度等も適切であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで利用者同士が過ごせるよう、明るさ・温度に配慮し、飲み物を勧めたり、居心地の良い空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具・飾りを活かし、居心地良く暮らせるようご本人・ご家族と相談・工夫・安全にも配慮している。	パンフレットにも「ご用意いただくもの」として「なじみの家具・思い出の品々」と明記しており、自由に持ち込んでもらい、それぞれが居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室・トイレ・風呂場等がわかるよう、名前を大きく掲げている。		